

特別講義のお知らせ
フロイトとロシア文学



講師 岩本和久氏

稚内北星学園大学教授

フロイトにとってロシア文学はまぎれもない他者の文化であったわけだが、一方でフロイトとロシア文学との距離は決して遠いものではなかった。ロシア文学への関心が世界的に高かったことは言うまでもないが、フロイトの周囲にはたくさんのロシア出身者がいたのである。

今回の講義では精神分析と文学との関わり、フロイトとロシア文化の接点、20世紀初めのロシアにおける精神分析受容について概観した後、近年、再評価が進んでいるロシアの精神分析家ニコライ・オーシポフについて特に、彼が遺した論文の他、フロイトとの交流、ソ連の精神分析運動や亡命文化との関わりを紹介する。

参考図書：岩本和久氏著『フロイトとドストエフスキー 精神分析とロシア文化』（東洋書店、2010年）

日時 2012年2月3日（月） 午後5時～6時30分

場所 東京大学（本郷キャンパス）文学部3号館7階スラヴ文学演習室

住所：〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

交通：地下鉄丸ノ内線・大江戸線「本郷3丁目」、南北線「東大前」などから徒歩10分

* この講義は、スラヴ語スラヴ文学大学院演習「ロシア近現代小説研究」（沼野充義）の一環として行なわれますが、履修者以外にも公開します。専門的関心をお持ちの皆様のご来聴を歓迎します。事前予約不要。

講師プロフィール

岩本和久氏は、東京大学大学院人文社会系研究科において、『脆弱な《私》の肖像——オレーシャの作品にみる自己愛と同一化』により博士号取得。現在、稚内北星学園大学情報メディア学部教授。20世紀～現代のロシア文学・文化専攻。著書に『フロイトとドストエフスキー——精神分析とロシア文化』（東洋書店、2010年）、『情報誌の中のロシア——文化と娯楽の空間』（ユーラシア・ブックレット、2008年）、『トラウマの果ての声——新世紀のロシア文学』（群像社、2007年）、『沈黙と夢——作家オレーシャとソヴィエト文学』（群像社、2003年）がある。そのほか、現代ロシア文学・文化に関する論文多数。